

第3問

次の文章は『松陰中納言物語』の一節である。東国に下った右衛門督は下総守の家に滞在中、浦風に乗って聞こえてきた琴の音を頼りに守の娘のもとを訪れ、一夜を過ごした。以下の文章は、それに続くものである。これを読んで、後の問い

(問1～6)に答えよ。(配点 50)

つとめて、御文やらせ給はんも、せん方のおはしまさねば、いと心もとなくて過ぐし給ひけるに、主人のまゐり給うて、昨日の浦風は、御身には染ませ給はぬにや。いと心もとなくてと啓し給へば、琴の音にやあるらんとおぼして、「めづらしき色香にこそ候ひつれ。唐琴にや、ゆかしくこそ」とのたまはすれば、思はずながら、取り寄せつ。調べさせ給ひて、「波の音に立ちまさりけるも、むべにこそあなれ」とて、箱に入れさせ給ふとて、御文を緒に結びつけさせて、「これ、ありつる方へ」とて、差し置かせ給へば、持て入りぬ。女君は、琴を召しけるを、あやしと思して、開けて見させ給へば、飽かざりし名残をあそばして、

「A あひみての後こそ物はかなしけれ人目をつつむ心ならひに
今宵は、いととく人をしづめて」

とありけれども、いかにせんとも思ひわき給はず。幼き弟君の、「客人の方へまゐらんに、扇を昨日、海へ落とし侍り。賜はらむ」とのたまひにおはす。何の、よきことと思して、端に小さう書き給ひて、「この絵は、おもしろう書きなしたれば、殿に見せさせ給へ。さもあらば、小さき犬をこそ、賜ひぬべけれ」とうち笑ませ給へば、よろこばひて、母君の方へまゐらせ給ひて、「扇をこそ、賜はりつれ」とて、見せさせ給へば、歌を見つけ給うて、あやしきことに思す。なほ、気色を見ばやと、後に立ちて、屏風の隠れより覗き給へり。「この扇の絵を見させ給へ。姉君の、かくこそ」とのたまへれば、まことにいみじくこそ書きなしたつれとて、見給へれば、

B かなしさも忍ばんことも思ほえず別れしままの心まどひに

今朝の琴の返しならむと思して、「この扇は、我に賜ひなん。犬をこそ、まゐらすべかめれ。京にあまたありつれば、取り寄

せてこそ、そのほどに」とて、黄金にて造りし犬の香箱を賜はせて、「姉君に見せ給へかし」とのたまへれば、持て入り給へるを、母君、いとどあやしと思して、「我にも見せよかし」とて、取りて見給へるに、**X** さればよ、昨日の琴の音をしるべにこそし給ふらめと思せど、気色を見えじと、もて隠し給へり。姉君の方へおはして見せ給ひつれば、「我がものにせん」とて、取らせ給ひて、「この犬をこそ」とのたまはずれば、「我が言葉は違ふまじければ」とて、蓋を取りて見給ひければ、内の方に、

C 別れつる今朝は心のまどふとも今宵と言ひしことを忘るな

惜しくは思せど、人もこそ見めとて、掻い消ち給へり。

母君は、忍びますらんも心苦しからむとて、右近を召して、「今宵、殿の渡り給はんぞ。よくしつらひ給へ。行く末、頼もしきことにてあるなれば」とのたまはずれば、さればよ、今朝よりの御ありさまも、昨日の楽を弾き替へ給ひしも、心もとなかりつればとて、かくとも言はで、几帳かけ渡し、隈々まで塵を払へば、「蓬生の露を分くらむ人もなきを、さもせずともありなし」とのたまへれば、「**Y** 蓬の露は払はずとも、御胸の露は今宵晴れなんものを」とうち笑へば、いと恥づかしと思す。

(注) 1 啓し給へば——「啓す」は、ここでは右衛門督に敬意を表すために使用している。

2 客人——右衛門督のこと。「殿」とも呼ばれている。


3 我が言葉——扇を渡すときの「小さき犬をこそ、賜ひぬべけれ」という言葉を指す。


4 右近——女君に仕える侍女。


5 楽を弾き替へ給ひしも——女君が唐琴で弾く「太平楽」に合わせて右衛門督が笛を吹き鳴らしたあと、右衛門督が吹く「想夫恋」(女性が男性を恋慕うという楽曲)に、女君が弾き合わせたことをいう。


問2 波線部 a ～ d の文法的説明の組合せとして正しいものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は 24。


- | | | | | |
|---|--------------|-------------|-------------|--------------|
| ① | a 打消の助動詞 | b 断定の助動詞 | c 形容動詞の活用語尾 | d 完了(強意)の助動詞 |
| ② | a 完了(強意)の助動詞 | b 格助詞 | c 断定の助動詞 | d 動詞の活用語尾 |
| ③ | a 打消の助動詞 | b 形容動詞の活用語尾 | c 格助詞 | d 打消の助動詞 |
| ④ | a 完了(強意)の助動詞 | b 格助詞 | c 形容動詞の活用語尾 | d 打消の助動詞 |
| ⑤ | a 打消の助動詞 | b 断定の助動詞 | c 格助詞 | d 完了(強意)の助動詞 |

已然形に接続する。


連体形に接続する。


終止形に接続する。


連用形に接続する。


未然形に接続する。


a

染ま 未然

	せよ	すれ	する	す	せ	せ
	命令	已然	連体	終止	連用	未然
給へ	給へ	給ふ	給ふ	給ひ	給は	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
		ざれ	ざれ	ざる	ず	ざり
		命令	已然	連体	終止	連用
なれ	なれ	なる	なり	なり	なら	
命令	已然	連体	終止	連用	未然	

係助詞 や

「給は」未然形に接続している
 ので、打消

※「ぬ」が、打消か、完了か、を問う

b

琴の音 体名詞

なれ	なれ	なる	なり	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

断定 ↓

係助詞 ← や →

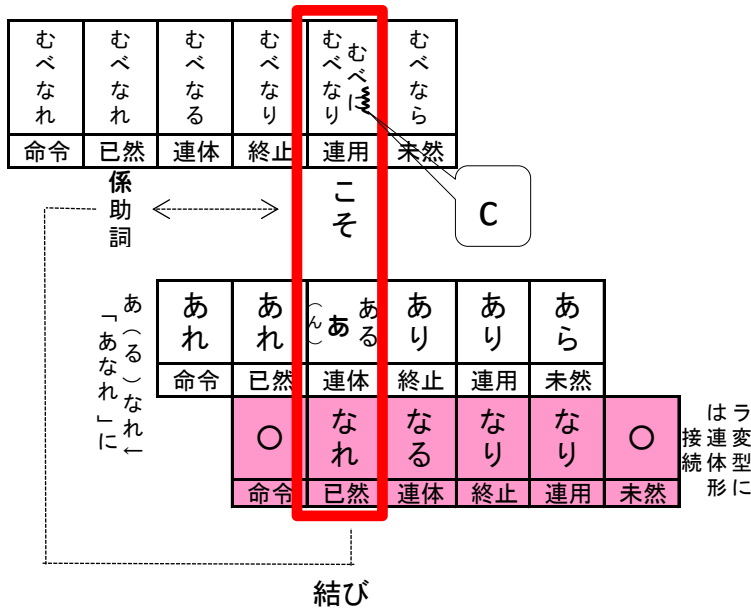
あれ	あれ	ある	あり	あり	あら
命令	已然	連体	終止	連用	未然
○	らめ	らん	らん	○	○
命令	已然	連体	終止	連用	未然

はラ変型に接続する形に 結び

「体言に接続する「に」の下に「あり」が来る場合は、断定

※「に」が断定か、格助詞か、形容動詞活用語尾か、を問う

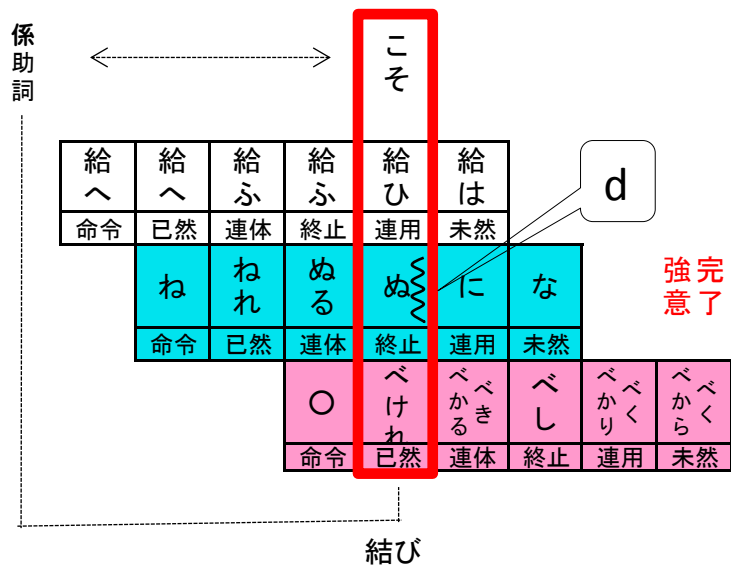
c



※「に」が形容動詞の活用語尾か、断定か、格助詞かを問う

「に」の上が「体言・連体形」でもない。格助詞×断定×形容動詞の活用語尾

d



※「ぬ」が打消か、活用語尾か、完了(強意)か、を問う

「給ひ」連用形に接続しているので、「完了」(強意)

後半はカラーなしです。

a

						染し ま	未然							
	せよ	すれ	する	す	せ	せ								
	命令	已然	連体	終止	連用	未然								
給へ	給へ	給ふ	給ふ	給ひ	給は	給は								
命令	已然	連体	終止	連用	未然	未然								
			ざれ	ざね	ざる	ず	ざり	ざら	ざら	ざら	ざら			
			命令	已然	連体	終止	連用	未然						
なれ	なれ	なる	なり	なり	なり	なら								
命令	已然	連体	終止	連用	未然	未然								
						係助詞	や							

「給は」未然形に接続している
ので、打消

※「ぬ」が、打消か、完了か、を問う

b

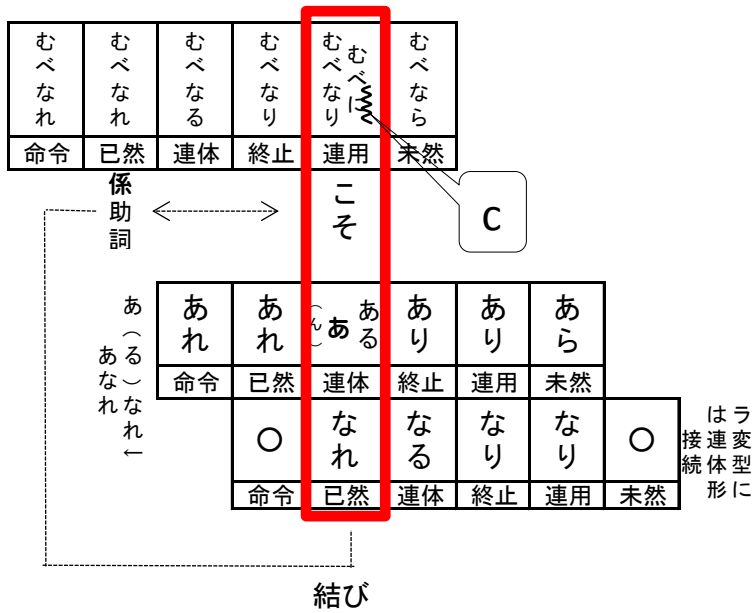
						琴の音	体名詞							
なれ	なれ	なる	なり	なり	なら	なら								
命令	已然	連体	終止	連用	未然	未然								
				係助詞	や	や								
						はラ変型に接続体形に								
	あれ	あれ	ある	あり	あり	あら								
	命令	已然	連体	終止	連用	未然								
	○	らめ	らん	らん	○	○								
	命令	已然	連体	終止	連用	未然								
						結び								

断定

「体言に接続する「に」の下に「ある」が来る場合は、断定

※「に」が断定か、格助詞か、形容動詞活用語尾か、を問う

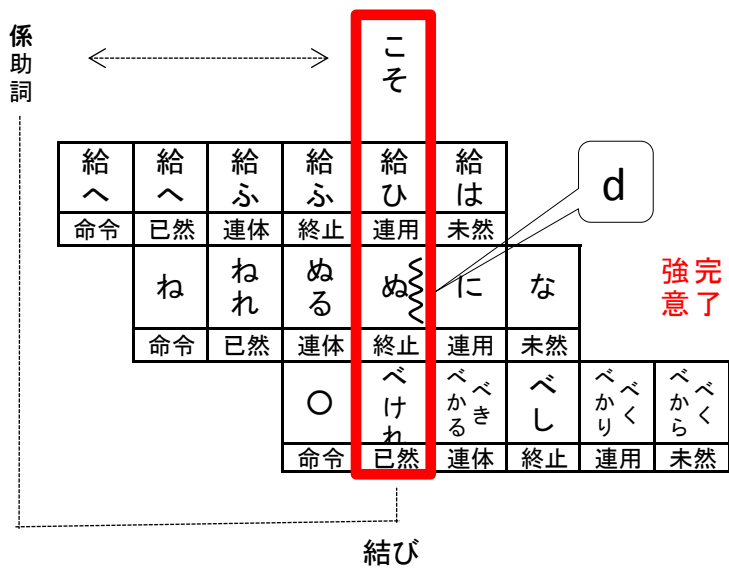
c



※「に」が形容動詞の活用語尾か、断定か、格助詞かを問う

「に」の上が「体言・連体形」でもない。格助詞×断定×形容動詞の活用語尾

d



※「ぬ」が打消か、動詞活用語尾か、完了(強意)か、を問う

「給ひ」連用形に接続しているので、「完了」(強意)